第4回紙・パルプ(家庭紙分野)の物流における生産性向上
及びトラックドライバーの労働時間改善に関する懇談会
議事概要

1. 日時

令和元年 11 月 19 日(火)10 時 00 分～12 時 00 分

2. 場所

経済産業省別館1階 104号各省庁共用会議室

3. 議事概要

- (1) 議題1「紙・パルプ物流(家庭紙)の課題解決の方向性等の中間報告について」、議題2「ガイドライン(骨子案)について」について事務局より説明を行い、意見交換を行った。
- (2) 各委員からは、以下のような発言があった。

【議事1. について】

①手積み手卸しの解消について

- 今回実証実験の対象製品は、全て1.5倍巻き、2倍巻き、3倍巻きのコンパクト製品。通常の12ロールであれば485ケースで大型トラックが満載になるが、今回の実証実験では、2倍巻き6ロールシングルだとパレット化しても積載数量は488ケースであり、積載効率を維持することができた。

②荷待ち時間の削減について

- 「荷待ち時間の削減」に向けては、単純に予約受付システムを導入するあるいは時間を決めるというだけでは効果が得られにくい。前工程、後工程のことも含めて、どうやって効果がある運用ができるか設定していくということが重要。
- 予約受付システムが事業者によってさまざまで、アプリ側の対応機種に制限がある場合があり、そのために運用が煩雑になっているのは問題。本来、標準化の議論があってしかるべき。
- 予約受付システムでは、予約していないほうがスムーズに行く場合がある。過去、予約制でなかったときには何時間も待ち時間があったが、予約システムに予約するのは一部の業者のみであっても、予約時間と予約時間との間に空きが生じ、結果として予約しなくとも、待ち時間が大幅に削減した。

- 日用雑貨総合卸と違い家庭紙専門卸の納品業者数は数十社程度と限られるため、予約受付システムというデジタル的な仕組みの必要性は低く、限られた納品業者との入荷打合わせをすることで、待機時間を減少させることができる。待機時間は、年末やGWなど長期休暇や繁忙期での物量増加、コンテナなどの特別な車両で入ってきた場合、パレットでない手積み・手卸しの荷物がある場合などになどで発生しているため、デジタル的な手法にこだわらず家庭紙の物流に合った手法を示す必要がある。

③少量多頻度納品の効率化について

- コンパクト製品ということを消費者に対してアピールするために、消費者の目にとまるような包装は意識している。ただ、そもそも環境に対してアピールできるかなどの訴求力は、メリットの認知度など含めて低い。消費者に対して長尺物製品について、物流・環境問題に対する効果をアピールする施策は現状充分でない。
- しかし、最重要施策としてコンパクト製品を進めようということで販売店に提案しているところで、徐々に増えていることは間違いない。消費者が選ぶ、買うときに重視するのは価格で、収納の効率性、環境対策、取替える手間の低減などの効果については、現状では訴求力が弱く、課題となる。現状では、メーカーは通常製品とコンパクト製品とを併売しており、売れ筋としては依然構成比は8(通常製品)対2(コンパクト製品)。洗剤がコンパクト化したときは、ある時に一斉に従来のタイプが無くなってしまって、コンパクト製品を選ぶしかなくなった状況があった。来年にかけて通常製品をやめていくという方針を打ち出しているメーカーもあるように聞いているので、そうなると加速はつくのではないか。
- 小売店にとっても在庫や陳列スペースの問題があり、特に都市部ほどアイテム数が置けないことから、より小さい製品のほうが効率的といえ、メーカーを含めて進めていくべきではないか。

④納品環境の改善について

- 来年のオリンピックの時期は、どうやって荷受け場所を確保するか苦心することになるだろうが、特に商店街に商品を納品するにはかなり厳しい状態になることが予想されるため、商店街の共同輸配送などの形態が一つでも多くなると大変良い。
- 六本木・ミッドタウンでは共同荷受けの仕組があり、貨物の搬入動線が明確に設計され、人の動線とぶつからないように、あらかじめ設計されている。設計段階か

ら動線計画をセットで検討する必要がある。

【議事2. について】

- 一番の問題は発注が特定時期に集中化すること。繁忙期(月末、月初等)において、各家庭紙メーカーに対する発注量が増加すると、混み合うのは当然。時期を問わず、発注量の平準化が重要。
- 平準化・計画化は結局のところ、最も重要。来年のオリンピック時期の物流の円滑化に向けて、期間中、前後にずらす、毎日配送を平準化・計画化で夜間配送するなど、多様な形態を組込み、「ならず」、「ずらす」、「事前に在庫を増やす」など、諸対策が想定されるため、早期に検討すべき。
- 例えば年末年始では、メーカーは休業するが卸は営業しており、約10日分の在庫を補完する必要が発生することからこの前後に荷量が集中することは当然で、これにより待ち時間は必ず発生してしまう。サプライチェーン全体での最適化を行い、各主体が何をすべきか、連携して検討すべき。
- 卸から小売りの物流では、多頻度納品のためパレットではなく手積み・手卸しで納品するが、重くて荷役作業は女性にはできない。大変な作業ということで若い人も来ない。これらの解決にはケースを小さくすればいいが、今度は単価が下がってしまって物流費率が高くなっていることがこれを阻んでいることから、トータル的にメーカーと卸の物流、卸から小売への物流という視点から、全体最適化を図ることが重要。
- 卸の大手ほどに待ち時間が問題となっている配送センターが多い。大手はホワイト物流を宣言しているところも多いので、ガイドラインの内容をホワイト物流宣言として自分で宣言させることも効果的。小売り側も物流を考慮した発注を考えずに困っているので、小売に対するホワイト物流への取組を強化すべきだ。
- パレット化がなぜ進まないのかというと、全体最適になっていないことがあげられる。メーカーの積み込み時間が速くなったとしても、卸側でパレットを積みかえることでは、トータル的には最適化されない。部分最適という形からまだ抜け出せていない。
- パレット化は紙・パルプだけでなく、他の荷種でも動き始めているため、確かに今は数%程度かもしれないが、今後拡大が予想される。確かにトイレトペーパーは

特殊で、チェーン化された小売業だと一括物流センターに入って、出荷という形態をとるため、発注単位が小さくとも一括物流センターに入れるときにはそれなりのロットになっていることが多い。一括物流センターに通さないと、とんでもなく小さい単位で持っていくしかない。この点、各小売店舗に入れる状況の中で発注単位が非常に小さいというのは問題だという意識を持ってもらう必要がある。今はほとんどほかの商品は一括物流センターを通していきますから、そういう意味では、ほかの商品とは状況が違うということを認識してもらうことはきっと必要である。

以上